

1 平成29年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類が1万4,460ha（対前年産比99%）、球根類が304ha（同96%）、鉢ものの類が1,643ha（同98%）、花壇用苗ものの類が1,401ha（同97%）となった。

出荷量は、切り花類が37億400万本（同98%）、球根類が9,110万球（同95%）、鉢ものの類が2億2,120万鉢（同98%）、花壇用苗ものの類が6億960万本（同94%）となった。

表1 平成29年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付（収穫）面積	出荷量	対前年産比	
			作付（収穫）面積	出荷量
切り花類	14,460 ha	370,400 万本（球・鉢）	99 %	98 %
球根類	304 ha	9,110 万球	96 %	95 %
鉢ものの類	1,643 ha	22,120 万鉢	98 %	98 %
花壇用苗ものの類	1,401 ha	60,960 万本	97 %	94 %

注：1 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。

2 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万4,460haで、前年産に比べ130ha（1%）減少した。

出荷量は37億400万本で、前年産に比べ7,700万本（2%）減少した。

都道府県出荷量割合は、愛知県が16%で最も高く、次いで沖縄県が9%となっている。

品目別出荷量割合は、きくが41%、ばらが7%、カーネーション及び切り枝がそれぞれ6%となっており、この4品目で全体の6割を占めている。

図1 切り花類の作付面積及び出荷量の推移

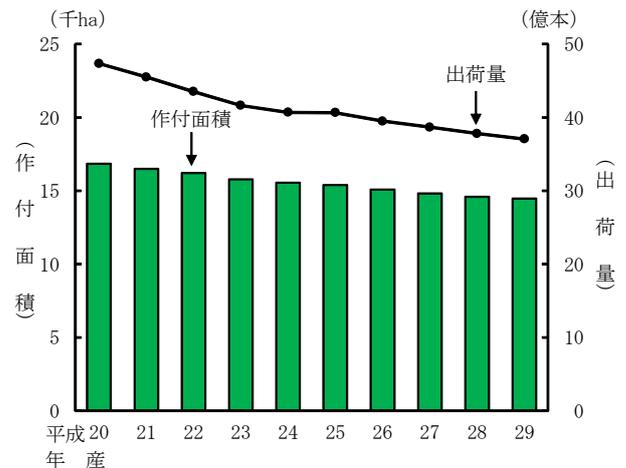


図2 切り花類の都道府県別出荷量割合

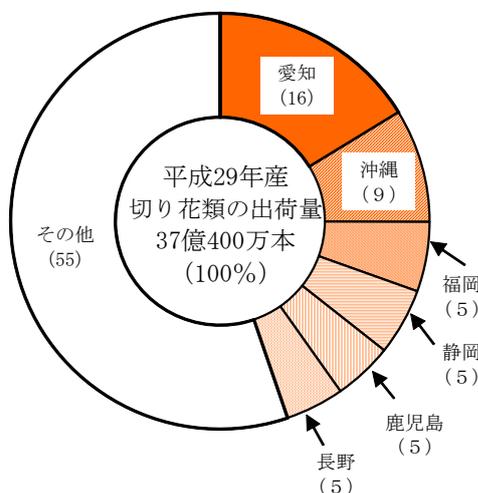


図3 切り花類の品目別出荷量割合

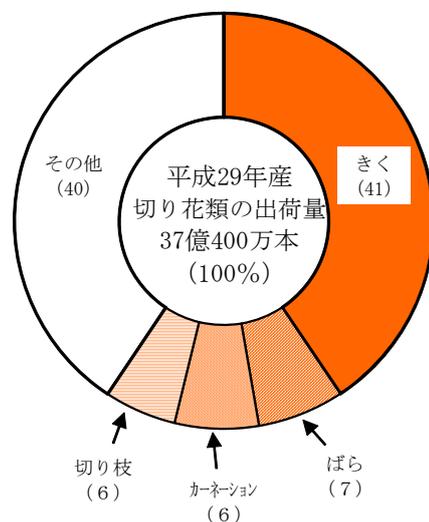


表2 平成29年産切り花類の作付面積及び出荷量（全国）

品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
切り花類	14,460	370,400	99	98
うちきく	4,758	150,400	99	99
カーネーション	295	24,020	98	96
ばら	336	24,820	97	97
りんどう	432	8,690	100	98
宿根かすみそう	204	5,000	nc	nc
洋ラン類	128	1,540	98	96
スターチス	187	12,490	101	102
ガーベラ	90	15,770	97	95
トルコギキョウ	434	10,100	99	100
ゆり	741	13,760	99	99
アルストロメリア	80	5,550	98	101
切り葉	655	12,280	99	91
切り枝	3,629	20,640	100	100

注：1 切り花類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。
 2 調査対象品目の要件を満たしたため、平成29年産から「宿根かすみそう」を追加した。
 なお、調査対象品目については、直近の2年間連続して花き計の生産額に占める割合が1%以上の品目並びに切り花類計、球根類計、鉢もの類計及び花壇用苗もの類計である（以下図10及び図12において同じ。）。

ア きく

作付面積は4,758haで、前年産に比べ43ha（1%）減少した。

出荷量は15億400万本で、前年産に比べ1,000万本（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が31%で最も高く、次いで沖縄県が19%となっており、この2県で全国の5割を占めている。

図4 きくの作付面積及び出荷量の推移

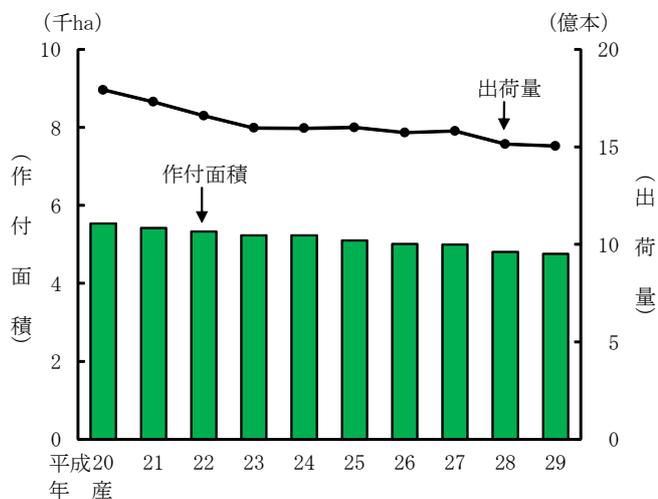
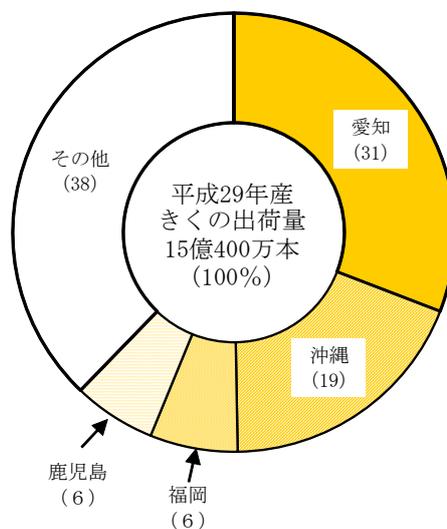


図5 きくの都道府県別出荷量割合



イ カーネーション

作付面積は295haで、前年産に比べ6 ha（2％）減少した。

出荷量は2億4,020万本で、前年産に比べ1,130万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が20％で最も高く、次いで愛知県が17％、北海道が11％となっており、この3道県で全国の約5割を占めている。

図6 カーネーションの作付面積及び出荷量の推移

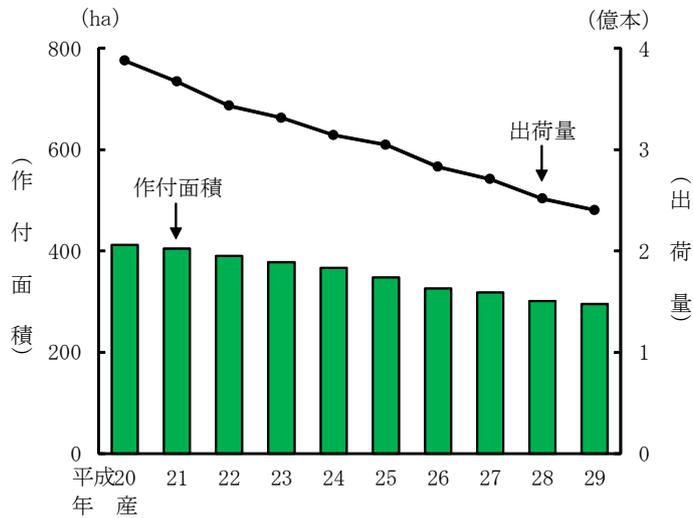
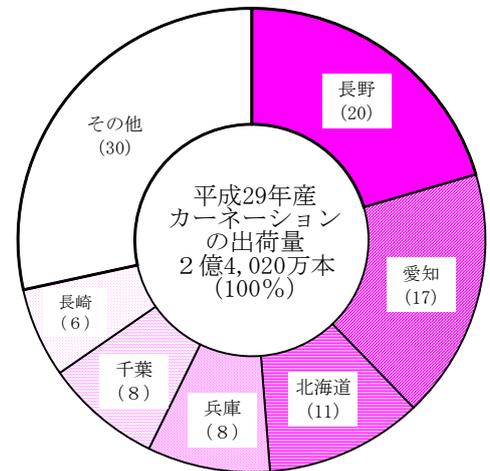


図7 カーネーションの都道府県別出荷量割合



ウ ばら

作付面積は336haで、前年産に比べ11ha（3％）減少した。これは、高齢化等により規模を縮小したこと等による。

出荷量は2億4,820万本で、前年産に比べ900万本（3％）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が18％で最も高く、次いで静岡県が9％、山形県が7％となっている。

図8 ばらの作付面積及び出荷量の推移

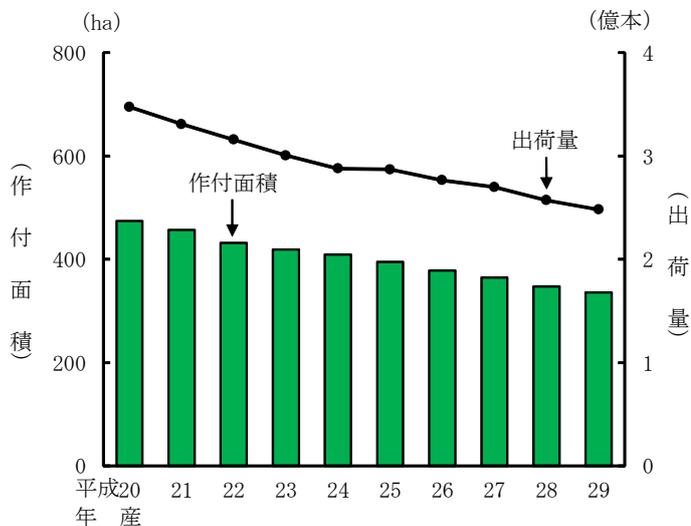
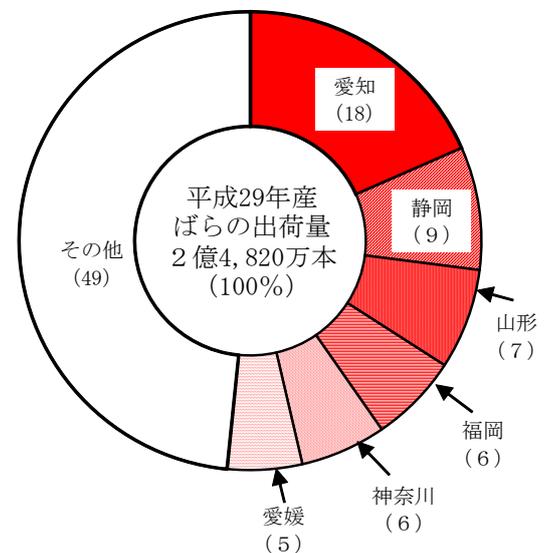


図9 ばらの都道府県別出荷量割合



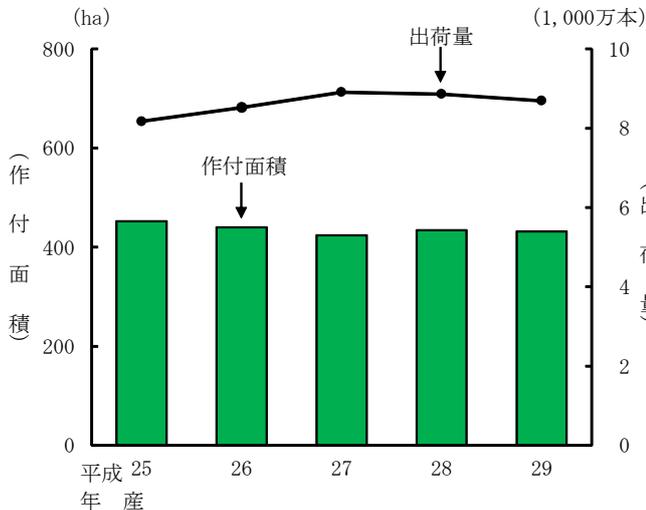
エ りんどう

作付面積は432haで、前年産並みとなった。

出荷量は8,690万本で、前年産に比べ170万本（2%）減少した。

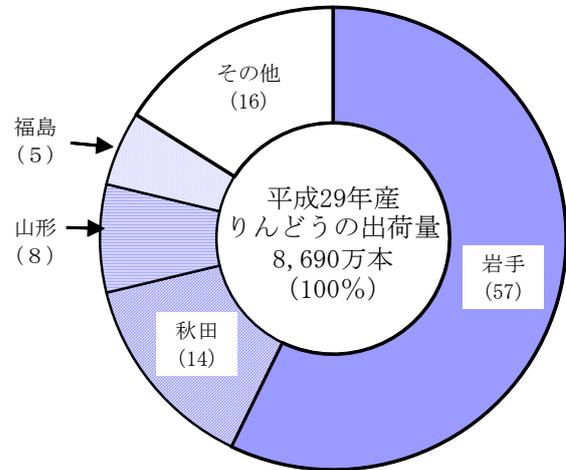
都道府県別出荷量割合は、岩手県が全国の約6割を占めている。

図10 りんどうの作付面積及び出荷量の推移



注：調査対象品目の要件を満たしたため、平成25年産から「りんどう」を調査対象に追加した。

図11 りんどうの都道府県別出荷量割合



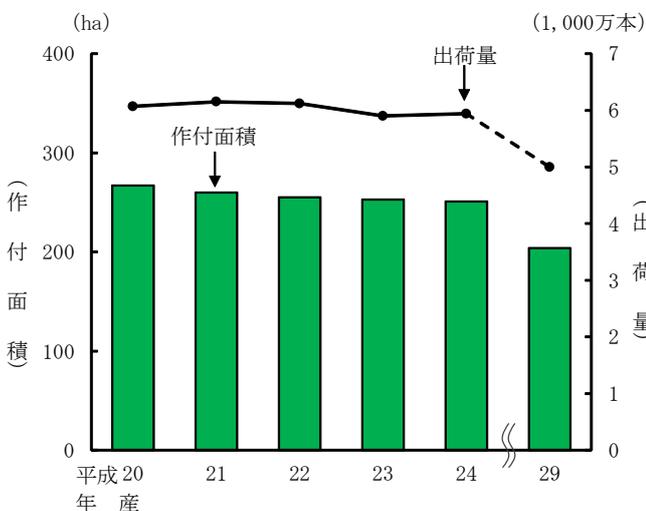
オ 宿根かすみそう

作付面積は204haとなった。

出荷量は5,000万本となった。

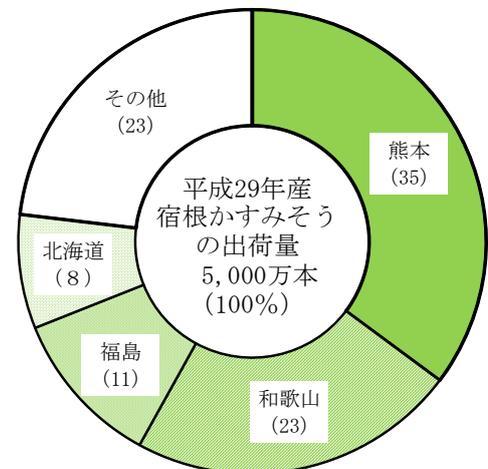
都道府県別出荷量割合は、熊本県が35%で最も高く、次いで和歌山県が23%となっており、この2県で全国の約6割を占めている。

図12 宿根かすみそうの作付面積及び出荷量の推移



注：「宿根かすみそう」については、調査対象品目の要件を満たさなくなったことにより平成25年産から調査対象から外れたものの、平成29年産から再び要件を満たしたため、調査対象に追加した。

図13 宿根かすみそうの都道府県別出荷量割合



カ 洋ラン類

作付面積は128haで、前年産に比べ2 ha（2％）減少した。

出荷量は1,540万本で、前年産に比べ60万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、福岡県が17%で最も高く、次いで徳島県が14%、沖縄県が10%となっている。

図14 洋ラン類の作付面積及び出荷量の推移

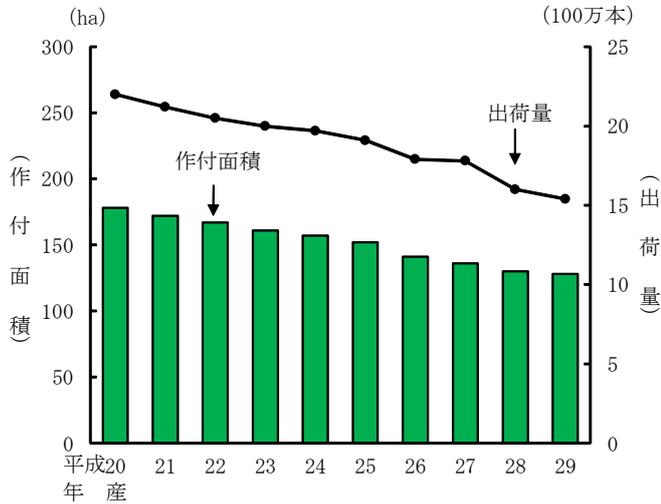
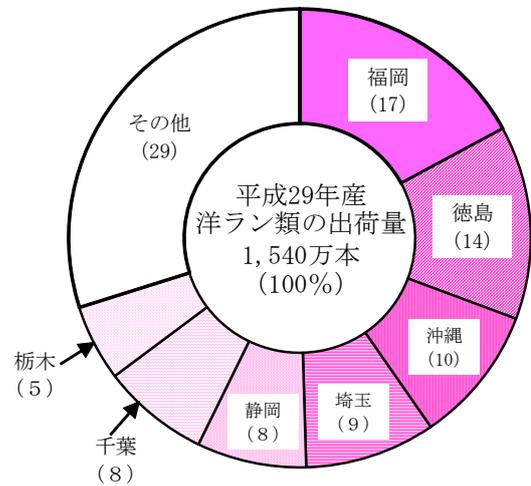


図15 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



キ スタース

作付面積は187haで、前年産に比べ2 ha（1％）増加した。

出荷量は1億2,490万本で、前年産に比べ220万本（2％）増加した。

都道府県別出荷量割合は、和歌山県が全国の5割を占めている。

図16 スタースの作付面積及び出荷量の推移

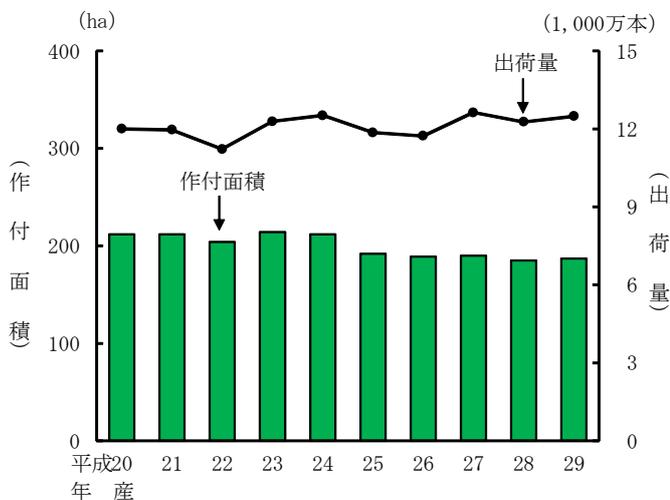
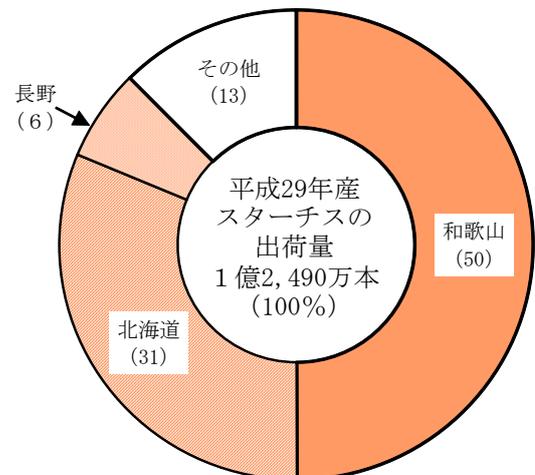


図17 スタースの都道府県別出荷量割合



ク ガーベラ

作付面積は90haで、前年産に比べ3ha（3%）減少した。これは、高齢化等により規模を縮小したこと等による。

出荷量は1億5,770万本で、前年産に比べ760万本（5%）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が39%で最も高く、次いで福岡県が14%となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

図18 ガーベラの作付面積及び出荷量の推移

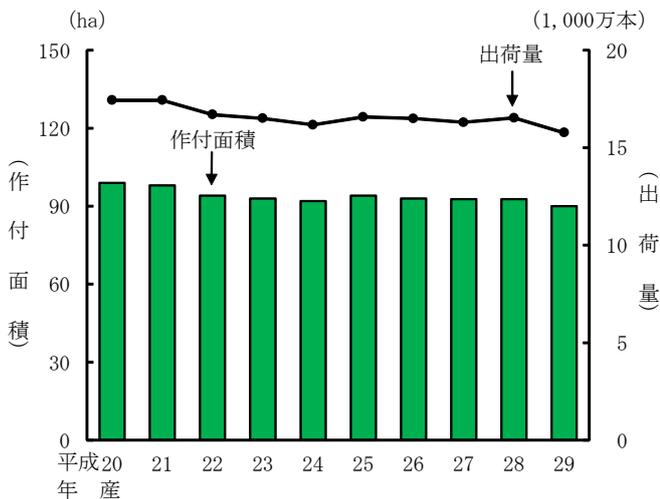
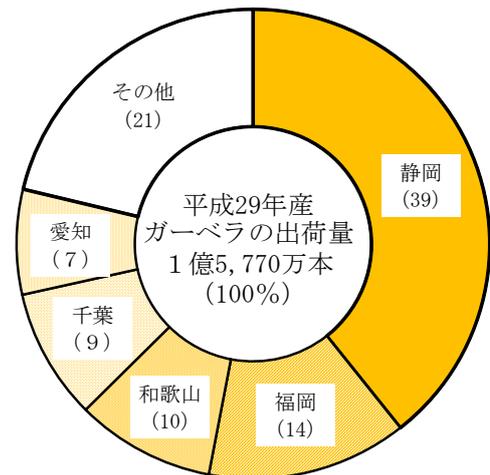


図19 ガーベラの都道府県別出荷量割合



ケ トルコギキョウ

作付面積は434haで、前年産に比べ3ha（1%）減少した。

出荷量は1億100万本で、前年産並みとなった。

都道府県別出荷量割合は、長野県が13%で最も高く、次いで熊本県が12%、福岡県が9%となっている。

図20 トルコギキョウの作付面積及び出荷量の推移

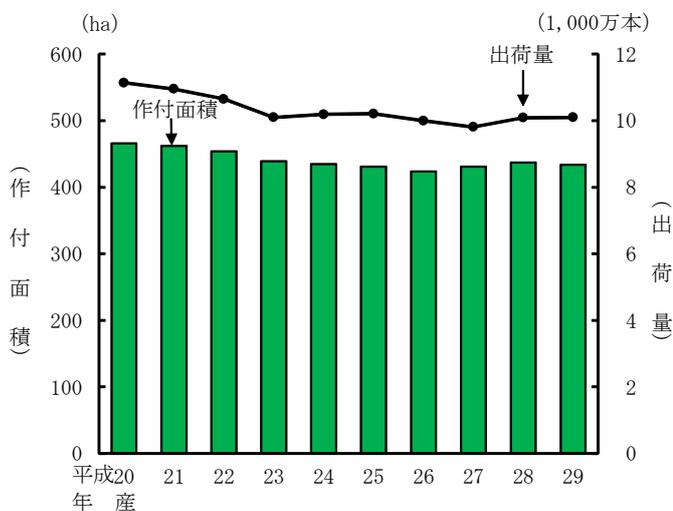
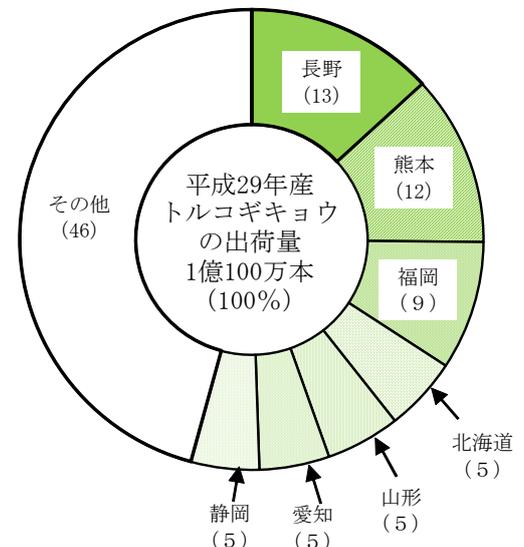


図21 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合



コ ゆり

作付面積は741haで、前年産に比べ11ha（1％）減少した。

出荷量は1億3,760万本で、前年産に比べ90万本（1％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が20％で最も高く、次いで高知県が12％、新潟県が9％となっている。

図22 ゆりの作付面積及び出荷量の推移

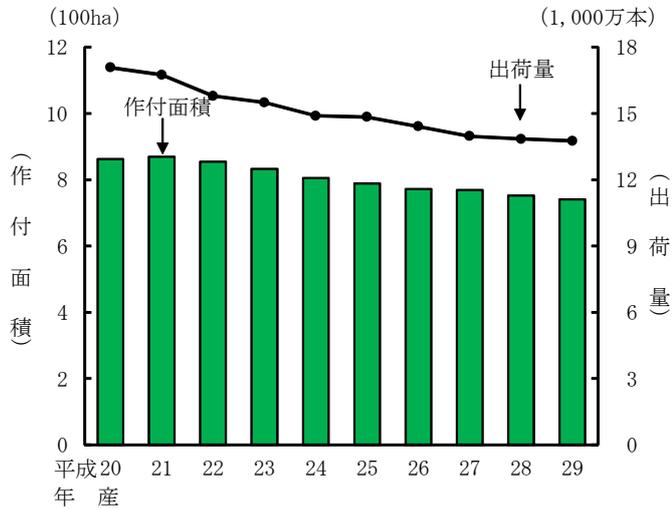
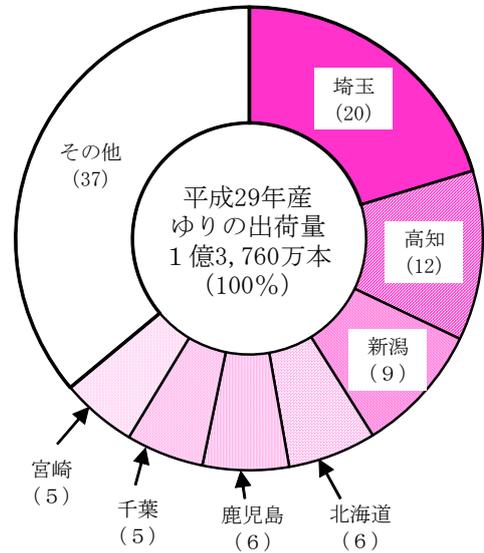


図23 ゆりの都道府県別出荷量割合



サ アルストロメリア

作付面積は80haで、前年産に比べ1ha（2％）減少した。

出荷量は5,550万本で、前年産に比べ30万本（1％）増加した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が35％で最も高く、次いで愛知県が17％となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

図24 アルストロメリアの作付面積及び出荷量の推移

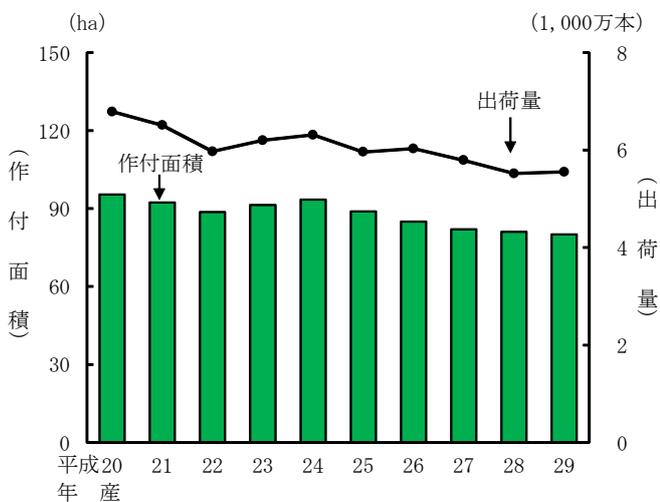
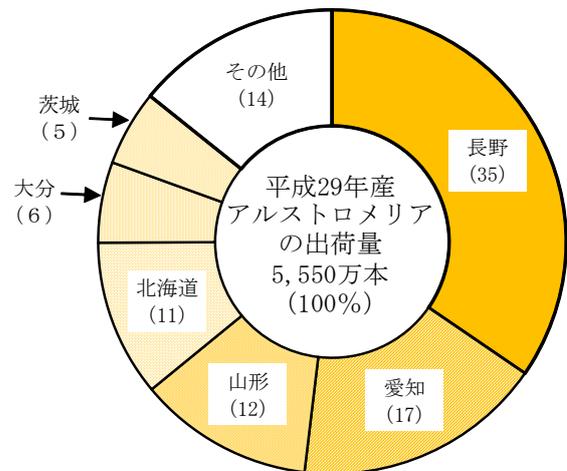


図25 アルストロメリアの都道府県別出荷量割合



シ 切り葉

作付面積は655haで、前年産に比べ6 ha（1%）減少した。

出荷量は1億2,280万本で、前年産に比べ1,250万本（9%）減少した。これは、主産地において夏の天候不順により生育が抑制されたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、東京都が34%で最も高く、次いで沖縄県が24%となっており、この2都県で全国の約6割を占めている。

図26 切り葉の作付面積及び出荷量の推移

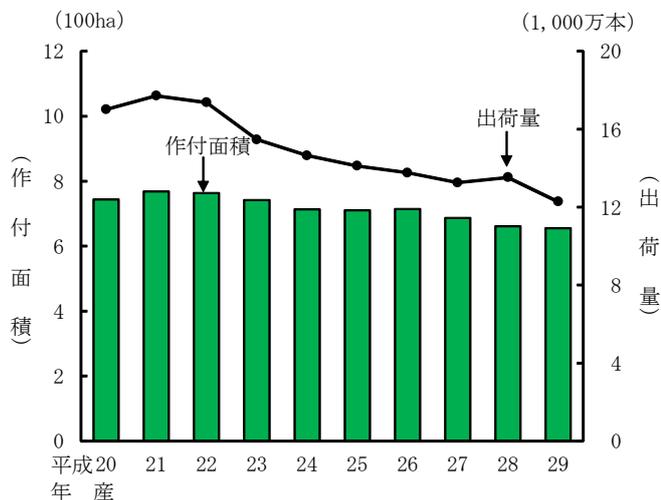
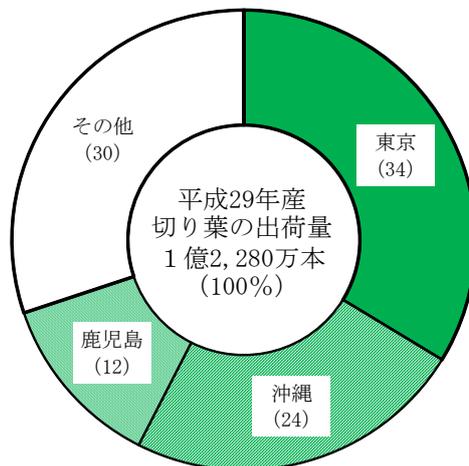


図27 切り葉の都道府県別出荷量割合



ス 切り枝

作付面積は3,629haで、前年産並みとなった。

出荷量は2億640万本で、前年産並みとなった。

都道府県別出荷量割合は、静岡県及び茨城県が15%で最も高く、次いで和歌山県が9%となっている。

図28 切り枝の作付面積及び出荷量の推移

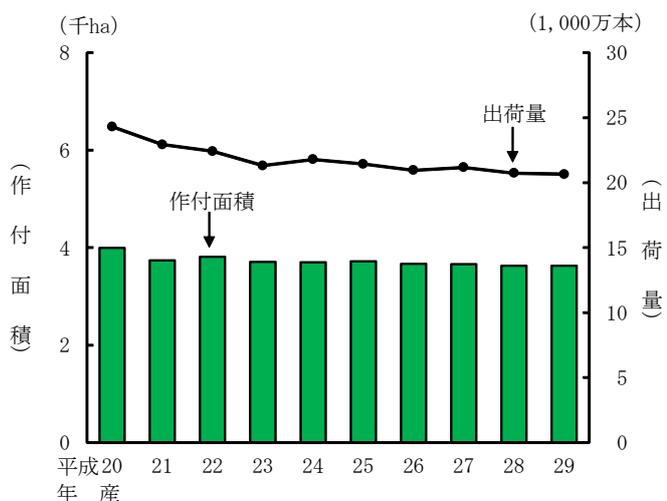
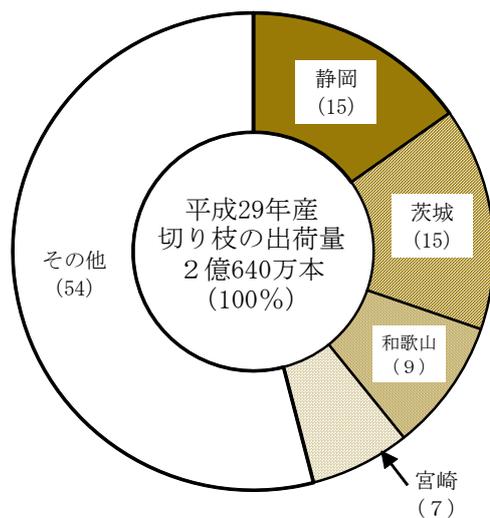


図29 切り枝の都道府県別出荷量割合



(2) 球根類

収穫面積は304haで、前年産に比べ13ha（4％）減少した。これは、高齢化等により規模を縮小したこと等による。

出荷量は9,110万球で、前年産に比べ430万球（5％）減少した。これは、収穫面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、鹿児島県が26％で最も高く、次いで新潟県及び富山県がそれぞれ18％となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図30 球根類の収穫面積及び出荷量の推移

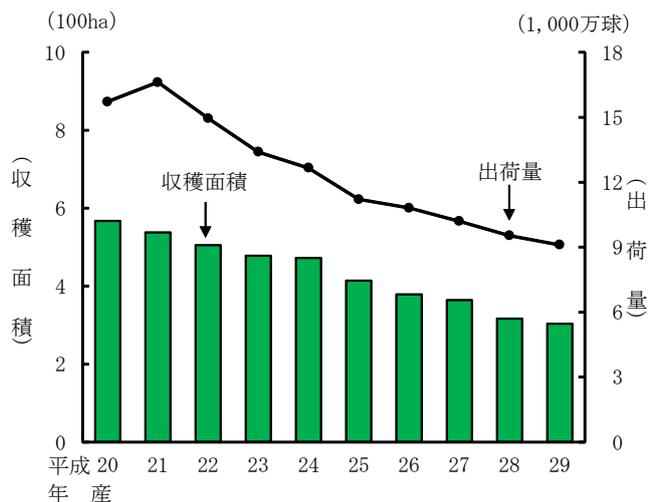


図31 球根類の都道府県別出荷量割合

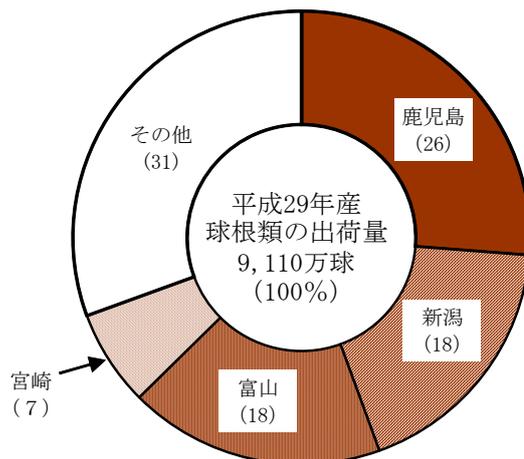


表3 平成29年産球根類の収穫面積及び出荷量（全国）

品目 (Item)	収穫面積 (Cultivation Area)	出荷量 (Output Volume)	対前年産比 (Ratio to Previous Year)	
			収穫面積 (%) (Cultivation Area)	出荷量 (%) (Output Volume)
球根類 (Bulbous roots)	304 ha	9,110 万球 (10 million balls)	96 %	95 %

(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,643haで、前年産に比べ32ha（2%）減少した。

出荷量は2億2,120万鉢で、前年産に比べ530万鉢（2%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が23%で最も高く、次いで埼玉県が11%、岐阜県が8%となっている。

品目別出荷量割合は、花木類及び観葉植物が20%、シクラメン及び洋ラン類が7%となっている。

図32 鉢ものの類の収穫面積及び出荷量の推移

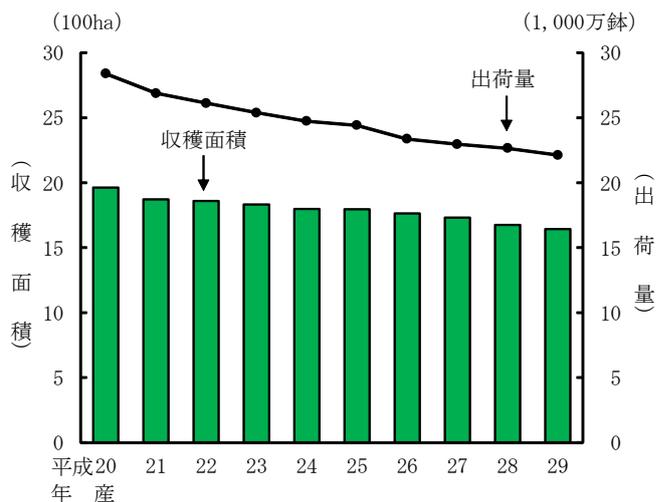


図33 鉢ものの類の都道府県別出荷量割合

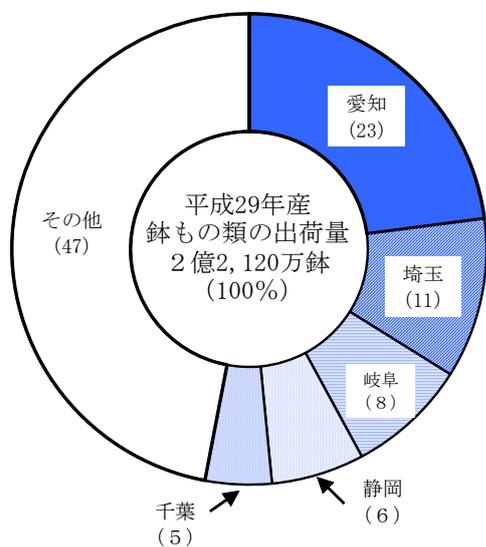


図34 鉢ものの類の品目別出荷量割合

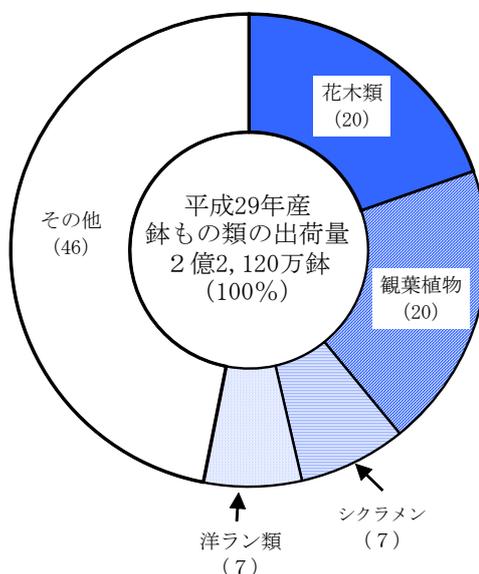


表4 平成29年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量（全国）

品目	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
鉢ものの類	ha	万鉢	%	%
鉢ものの類	1,643	22,120	98	98
うちシクラメン	181	1,620	96	92
洋ラン類	190	1,470	97	93
観葉植物	304	4,320	100	102
花木類	383	4,330	98	98

注：鉢ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア シクラメン

収穫面積は181haで、前年産に比べ7ha（4％）減少した。これは、高齢化等により規模を縮小したこと等による。

出荷量は1,620万鉢で、前年産に比べ140万鉢（8％）減少した。これは、収穫面積が減少したことに加え、生育期間の天候不順により生育が抑制されたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、長野県が14％で最も高く、次いで愛知県が9％、千葉県が7％となっている。

図35 シクラメンの収穫面積及び出荷量の推移

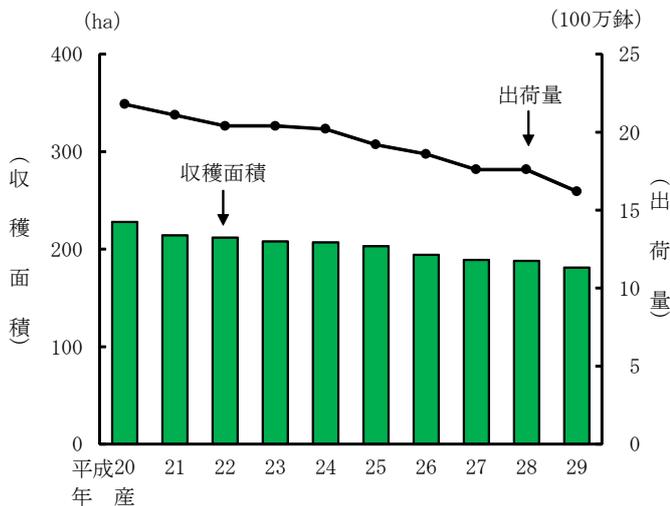
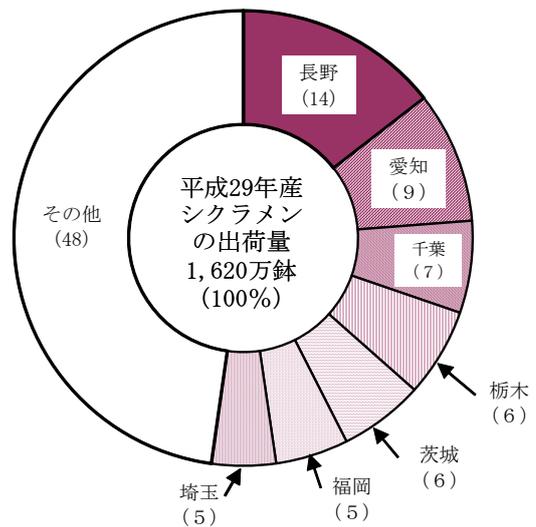


図36 シクラメンの都道府県別出荷量割合



イ 洋ラン類

収穫面積は190haで、前年産に比べ5ha（3％）減少した。これは、高齢化等により規模を縮小したこと等による。

出荷量は1,470万鉢で、前年産に比べ110万鉢（7％）減少した。これは、収穫面積が減少したことに加え、高知県において台風被害が発生したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が24％で最も高く、次いで熊本県が11％、福岡県が8％となっている。

図37 洋ラン類の収穫面積及び出荷量の推移

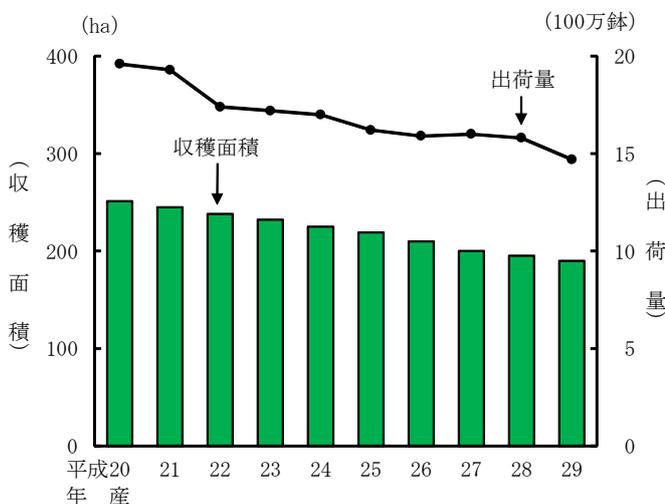
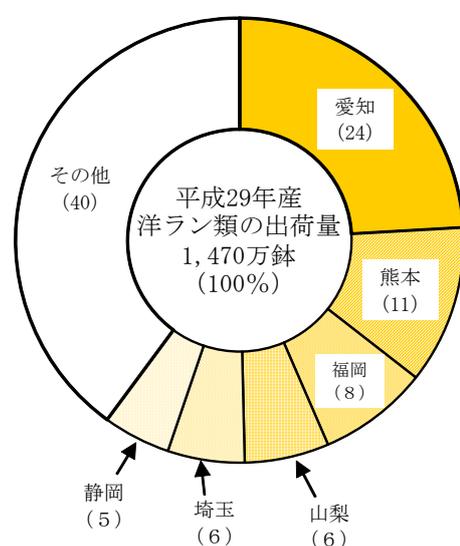


図38 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



ウ 観葉植物

収穫面積は304haで、前年産並みとなった。

出荷量は4,320万鉢で、前年産に比べ90万鉢（2%）増加した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が全国の5割を占めている。

図39 観葉植物の収穫面積及び出荷量の推移

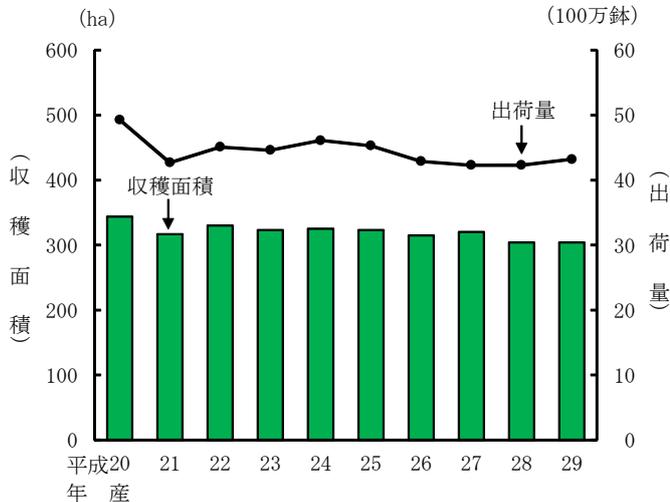
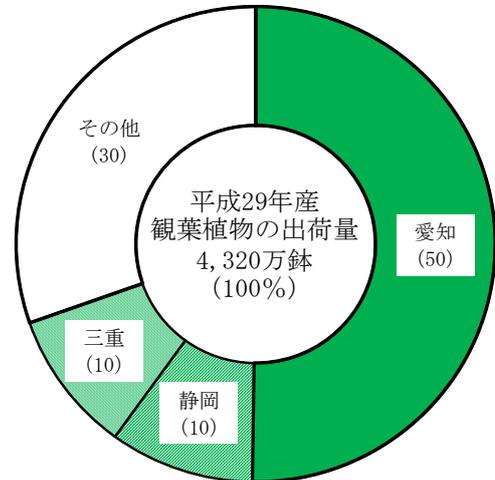


図40 観葉植物の都道府県別出荷量割合



エ 花木類

収穫面積は383haで、前年産に比べ8 ha（2%）減少した。

出荷量は4,330万鉢で、前年産に比べ90万鉢（2%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が28%で最も高く、次いで新潟県が18%となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

図41 花木類の収穫面積及び出荷量の推移

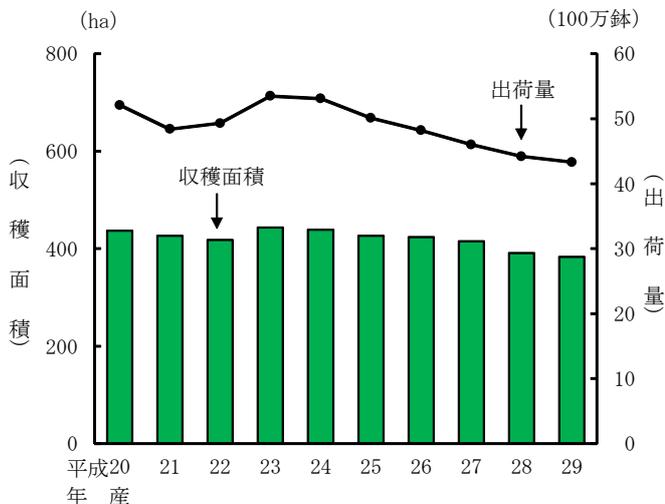
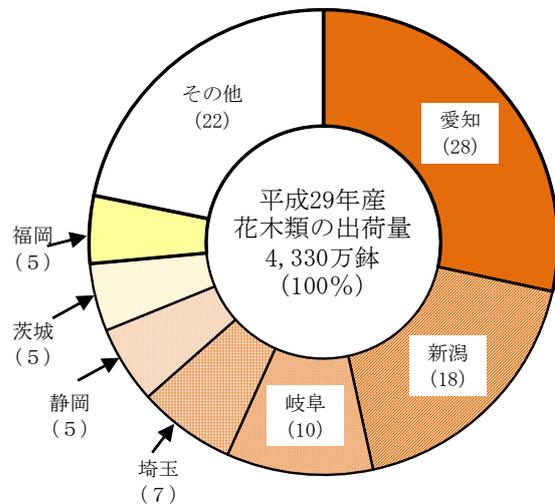


図42 花木類の都道府県別出荷量割合



(4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,401haで、前年産に比べ49ha（3%）減少した。これは、高齢化等により規模を縮小したことや他作物へ転換したこと等による。

出荷量は6億960万本で、前年産に比べ3,970万本（6%）減少した。これは、作付面積が減少したことに加え、生育期間の天候不順により生育が抑制されたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が9%で最も高く、次いで千葉県が8%、愛知県が7%となっている。

図43 花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量の推移

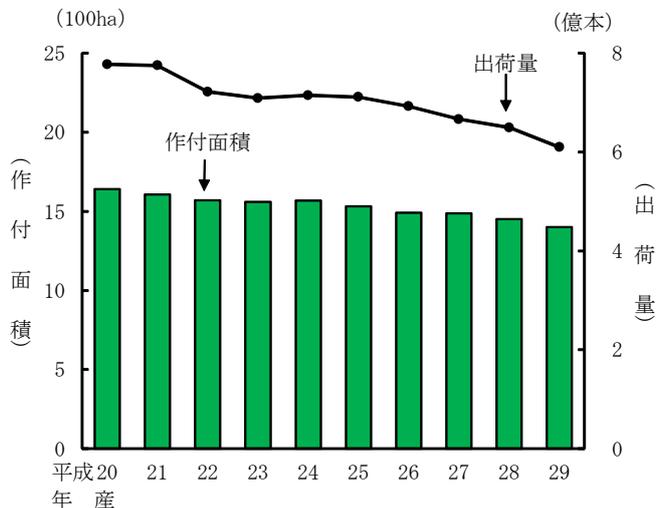
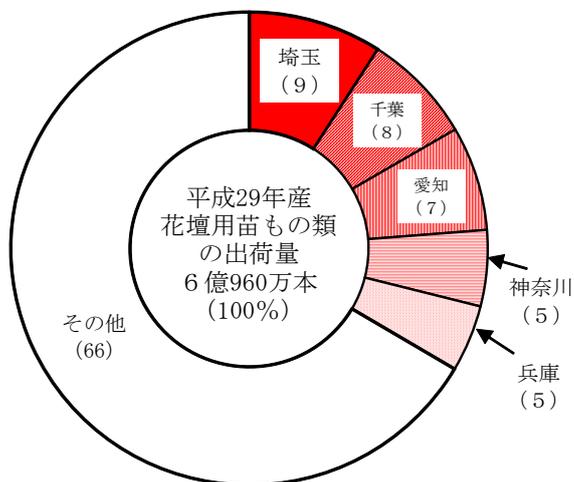


図44 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合



このうち、パンジーの作付面積は267haで、前年産に比べ8ha（3%）減少した。これは、高齢化等により規模を縮小したことや他作物へ転換したこと等による。

出荷量は1億2,910万本で、前年産に比べ550万本（4%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県及び神奈川県が8%で最も高く、次いで奈良県が6%となっている。

図45 パンジーの作付面積及び出荷量の推移

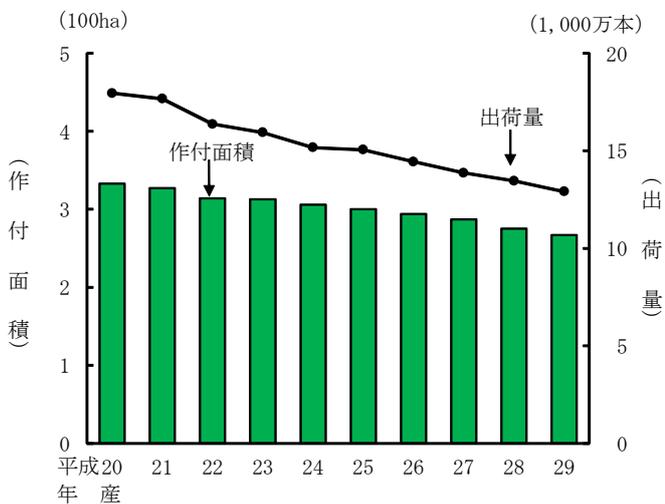


図46 パンジーの都道府県別出荷量割合

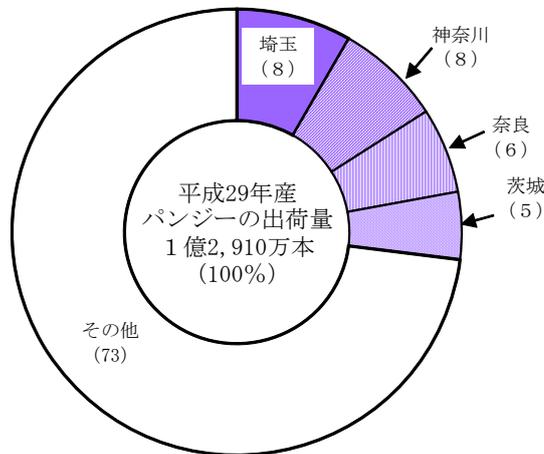


表5 平成29年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量（全国）

品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
花壇用苗もの類	ha	万本	%	%
	1,401	60,960	97	94
うちパンジー	267	12,910	97	96

注：花壇用苗もの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。